

# 整形外科

## I. プログラムの名称

福岡大学病院 整形外科 後期臨床研修プログラム

## II. プログラムの目的と特徴

卒後臨床研修（2年）を修了した後、さらに整形外科専門医の養成を目的として3～7年の5年間で修了する臨床研修プログラムである。大学病院または関連施設で指導医の監督下に幅広く整形外科疾患の診療を行い、知識とともに技能を修得する。研修修了後に日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医などの受験資格を得ることができる。

## III. プログラムの指導者と参加施設の概要

- ① プログラム指導者：福岡大学病院 整形外科 内藤 正俊（主任教授）
- ② 基 幹 施 設：福岡大学病院 整形外科
- ③ プログラムに参加・協力する教育関連施設の概要

|                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 福岡大学筑紫病院整形外科      | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 福岡大学病院救命救急センター    | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 壱岐市民病院整形外科        | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| えにわ病院整形外科         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 大分整形外科病院          | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 熊本整形外科病院          | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 佐賀県立病院好生館         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| シムラ病院整形外科         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 昭和病院整形外科          | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 総合せき損センター整形外科     | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 中対馬病院整形外科         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 久恒病院整形外科          | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 福岡山王病院整形外科        | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 福岡徳洲会病院整形外科       | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 福岡リハビリテーション病院整形外科 | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 福西会病院整形外科         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| マリン病院整形外科         | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 南川整形外科病院          | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| 村上華林堂病院整形外科       | (日本整形外科学会認定研修施設) |
| ヨコクラ病院整形外科        | (日本整形外科学会認定研修施設) |

#### IV. プログラムの管理運営

毎年10月に開催している基幹施設の責任者と教育関連施設との部長会議に於いて、後期研修医が整形外科専門医必須14分野を満遍なく研修できる後期研修プログラムの立案や見直しを行っている。研修医は受け持ち患者および手術の経験を各自研修ノートに記載している。この記録をバランスのとれた研修が行える施設の選択に役立てている。後期研修プログラム修了後には各研修医の研修実績が平均化されるように努めている。

#### V. 定員および選考方法

- ・ 定員：15名程度
- ・ 福岡大学病院の規定に従う。

#### VI. 教育課程

##### ① 時間割定員配置予定と研修内容

##### 第一期：基幹施設および教育関連施設における研修（24ヶ月）

大学病院または関連施設で指導医の監督下に救急外傷の初期治療や単純な骨接合術などの難易度の低い手術を主体的に行う。基礎的ないし臨床的研究のテーマを選択し、科学的な考え方を育成する。また文献や学会発表に対する偏らない評価や判断力を修得する。

注1：研修医の公平を期するために基幹施設と教育関連施設間での研修医の移動を行う。そのための研修施設の選択と研修医の割付はプログラム指導者と教育関連施設の部長との協議によって年度ごとに決定される。

注2：研修ノートが注1のプログラム指導者と教育関連施設の部長との協議の資料になる。各研修医はこのノートに日本整形外科学会の申請症例疾患分類に準じて受け持ち患者のサマリーを記載する。手術に関しては、執刀者となったか、助手をしたかについて分け、各自の発表論文や研究課題なども記録し、年度末にプログラム指導者に提出する。

##### 第二期：基幹施設および教育関連施設における研修（24ヶ月）

大学病院または関連施設で指導医の監督下に複雑な骨接合術に対する手術手技や関節鏡や骨切り術などの頻度の高い待機手術（elective surgery）手技を修得する。自分の研究テーマについてまとめ、カンファレンスや学会で報告する能力を身につける。

##### 第三期：基幹施設および教育関連施設における研修（12ヶ月）

基幹施設または関連施設で一般的な整形外科疾患について正確な診断を下し標準的な治療を行う能力を修得する。日本整形外科学会専門医の受験資格を獲得する。チーム医療のリーダーとしての円滑な診療の実践を学ぶ。自分の専門分野を決め、国内・海外でのfellowshipを受ける。

注3：この時期に学位取得希望者は学位論文をまとめる。

## ② 到達目標

第一期修了までに整形外科の知識と初歩的な手術手技を修得し、情報収集能力や総合的判断力を修練する。第二期修了までに整形外科の専門的な知識と一般的な手術手技を修得し、報告・連絡・相談技術も習得する。第三期修了までに整形外科専門医としての知識と技能を修得し、チーム医療を実践する。日本整形外科学会専門医の受験資格を取得し、診療の責任者としての自覚と実力を身につけ、臨床医、教育者、研究者などの将来の方向性を自己決定する。

## ③ 臨床研修内容と診療体制

### 第一期（基幹施設および教育関連施設における研修）

病室および外来において、各施設の指導者の監督のもとに10～20床の主治医として診療に当たる。指導者の判断に基づき、学年に応じて術者となることができる。卒後臨床研修に比べると、診療の各場面においてより大きな責任を分担することになる。また主治医として、他診療科との関連、医療チームの在り方なども実際に経験する機会が増し、臨床医としての幅を広げるよい機会である。外来や当直の回数は病院によって異なる。

### 第二期（基幹施設および教育関連施設における研修）

病室では診療チームの助手として後輩の研修医の直接指導に当たるが、講師やスタッフ助手の指導助言も受ける。外来では、診察の担当、検査、比較的簡単な手術を行う。当直においては、当直責任者となる。また、患者診療に必要な種々の検査（脊髄造影や関節鏡検査など）を担当し、これらを修得する。

### 第三期（基幹施設および教育関連施設における研修）

基幹施設または関連施設で一般的な整形外科疾患について責任を持って診療を行う。チーム医療の円滑な実践や自分の専門分野での学会活動にも努める。日本整形外科学会専門医の受験資格を獲得する。学位取得希望者は専門分野の研究班の指導を受けながらこの間に学位論文をまとめる。

## ④ 勤務時間：基本的には7：30～18：00であるが、実際には前後に超過することが多い。

⑤ 教育に関する行事

福岡大学病院整形外科に於ける臨床研修の週間スケジュール

|   | 7:30                         | 8:40   | 13:00                         | 15:00   | 17:00     |
|---|------------------------------|--|-------------------------------|---|-----------|
| 月 | (肩勉強会)                       | 外来(新患予診)<br>病棟(注射当番)<br>骨粗鬆症外来<br>脊椎外来<br>*手術日 | 足の外科外来<br>レ線読影<br>BSL<br>*手術日 | 教授回診、レ線カンファ<br>レンス<br>新患・術前・術後<br>カンファレンス<br>*手術日 | 抄読会・医局会   |
| 火 |                              | 外来(新患予診)<br>病棟(注射当番)<br>*手術日                   | 股関節外来<br>骨粗鬆症外来<br>*手術日       | *手術日  | (足の外科勉強会) |
| 水 | 新患・術前・術後<br>カンファレンス<br>教授回診  | 外来(新患予診)<br>病棟(注射当番)                           | 手外科外来<br>リウマチ外来<br>筋電図        |   | (脊椎カンファ)  |
| 木 |                              | 外来(新患予診)<br>病棟(注射当番)<br>*手術日                   | 膝外来<br>スポーツ外来<br>*手術日         | *手術日  |           |
| 金 | 新患・術前・術後<br>カンファレンス<br>准教授回診 | 外来(新患予診)<br>病棟(注射当番)<br>*手術日                   | 肩外来<br>小児外来<br>*手術日           | *手術日  | (手の外科勉強会) |
| 土 |                              | 病棟(注射当番)                                       |                               |   |           |

教育関連施設における週間スケジュール：各関連施設における週間スケジュールによる。

⑥ 指導体制

- ・ 教授—准教授—講師—スタッフ助手—助手—研修医により構成される。
- ・ 研究グループ(スポーツ障害、膝関節外科、股関節外科、脊椎外科、肩関節外科、手の外科、リウマチ、骨軟部腫瘍、足の外科)があり、それぞれの専門領域の患者については、それぞれのグループが患者の検査、診察について必要に応じて担当医に助言し、指導する。
- ・ 内科的疾患をはじめ他領域の疾患を合併する場合には、必要に応じて他診療科の専門医対診を依頼し、その指導、助言を受ける。
- ・ 研修医は当直の義務があるが、オーベンとの二人当直制をとっており、その指導のもとに当直する。

VII. 評価方法

- ・ スタッフおよび医長により逐次評価を受ける。さらに毎年年度末に研修医の総合評価が行われ、必要に応じて研修医に対し助言や指導が行われる。研修医に対する評価項目は、医学的知識・技能、情報収集能力、総合的判断力、医師としての責任感、報告・連絡・相談技術である。
- ・ 第二期ではこれらの項目とともに研修医に対する指導力も評価され、第三期ではさらにチーム医療に対する実践能力も評価項目に加わる。

## VIII. プログラム修了後のコース

日本整形外科学会専門医を取得し、臨床医、教育者、研究者などを適性に応じて、選択する。

## IX. 身分と待遇

**身 分**：福岡大学病院の規定により助手として採用する。教育関連施設では各施設の規定に応じて医員、医師などとして採用する。後期研修修了後は福岡大学医学部あるいは教育関連施設で可能な限りスタッフとして採用する。

**給 与**：待遇は、福岡大学病院の規定による。なお、1週間に約1回当直がある。当直回数に応じて当直料が支給される。また、週に1回部外研修（報酬あり）や不定期の当直がある。教育関連施設では病院によって異なる。

**宿 舎**：なし

**社会保険**：有り（日本私立学校振興・共済事業団に加入）

**定期健康診断**：有り

**医師賠償責任保険**：自己負担